

令和5年5月

宇部中央高校は、全日制、定時制ともに、新学年・新入生を迎え、新鮮な活気に満ちています。校舎内外で出会う生徒たちは、明るく元気な挨拶をしてくれる人もいますし、控えめに会釈をしてくれる人もいます。どちらもうれしいです。ただ校長とは認識されず、事務室のおじさんと思われているようです。

4月から新しい環境で全力疾走し、少々疲れが出ているのではないですか。心が折れそうになっている人もいるかもしれません。誰かに相談してください。学校は楽しいこと、うれしいことばかりではありません。学校はみなさんが「成長する」場だからです。本校の先生方は、「今日一日来てよかったなと思える学校」にしようとしています。だれもがそう思えるよう、みんなで支えあっていきましょう。

さて、元気回復のためには休息と食事が大事です。腸の中では何百兆もの細菌が働いていて、まるでお花畑のようなので腸内フローラと言われるそうです。その腸内にいる微生物くんたちのエサになるものを意識的にとりましょう。納豆とか野菜とか。野菜も一種類ではだめです。微生物くんたちは好物の野菜がそれぞれ違うので何種類もとってください。水もやりましょう。腸内フローラ（お花畑）には水やりも欠かせません。筋トレはさぼっても食事はさぼらずに、腸から元気になっていきましょう。

#### ○ 言葉の力 ～困るということは、次の新しい世界を発見する扉である～

先月、離任式があり、この春の異動で本校を去ることになられた先生方から、温かい励ましのメッセージをいただきました。その中で、ある先生は発明王と称されるトマス＝エジソン※の言葉を紹介され、それまで背負っていた重荷を下ろすことができたような気がしたとおっしゃられました。その言葉は「私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、上手くいかない方法を見つけたのだ。」です。これはエジソンがある新聞記者から数多くの失敗について聞かれたときに発した言葉です。その先生はこの言葉に出会えて、ずっと抱えていた胸のつかえがおりたのです。言葉の力は偉大だと思います。

それを受けて、全日制的校長講話で、「失敗」にまつわるエジソンの別の言葉を紹介しました。「困るということは、次の新しい世界を発見する扉である」という言葉です。さらに、コロナ禍で個人の発明が急増していること。つまり、コロナ禍で不便だなと思うことが増えたことによって、それを何とかしようという発明が増えていることを紹介しました。視点を変えれば、ピンチは発想の源であり、発明の卵なのです。

発想力という点でいえば、人と違うことは素晴らしいことです。人と同じことを言っても、それは発想ではありません。「不便だな」、「困ったな」という独自の経験が発明につながったのです。不便や困難はチャンスでもあるのです。そのように捉えられるかどうか。宇部中央高生のみなさん、ぜひポジティブに、しなやかに、したたかに、そして、元気出していきましょう。皆さんはみんなミニ発明家です。

※ エジソン：蓄音機、白熱電球など1300もの発明と技術革新を行ったアメリカ人。

## ○ 言葉の力 ～失敗して、すぐ立ち上がるのが一流～

高校総体の壮行式では、元サッカー日本代表監督のオシム監督の言葉などを紹介し、激励しました。5月は全日制・定時制ともに、中間考査があります。高校総体や定体連の県予選も近づいてきます。すべての宇部中央高生にエールを送りたいと思うので、もう少し言葉を紹介します。

一つは、4年前、ラグビーワールドカップ大会での姫野和樹選手の言葉です。その言葉は、「失敗して、すぐ立ち上がるのが一流」です。実際に、その言葉が、テレビの向こうのラグビー日本代表のプレーに重なりました。彼らは倒れてもすぐに立ち上がって、相手にタックルに行っていました。すぐに姫野選手をネット検索すると、誰にも負けないような強さを持っているように見える姫野選手ですが、初めてキャプテンを任命されたとき、あまりのプレッシャーにラグビーをやめたいと思ったそうです。その時、彼は中学時代の恩師から言われた「常に一流であれ」という言葉を思い出して、当時、一流の定義は分からなかったけれども乗り越えられたと述べていました。そして、大学時代に「失敗してもすぐに立ち上がれる人間が一流」と教えられ、そこからはその言葉が支えになっていると述べていました。

もう一つは、昨年末のサッカーワールドカップ大会での、長友佑都選手の言葉です。それは、「絶対にあの場所にたどり着く。衰えを指摘されても、批判されても。」です。本大会前、確かに長友選手は一部では「オワコン」のように言われていました。しかし彼は、あのロシア大会の「ロストフの空を忘れるな※」を忘れず、誰に何と言われようと信念を貫いたので。そして、本大会では「ブラボー」な活躍をしました。

これらの言葉は、全日製のチャレンジ目標「現状打破～過去の自分を超えていけ～」や2年次のモットー「雨だれ石を穿つ」に通ずるものがあります。

私たちはだれでも失敗すると落ち込みます。批判されると心が折れがちです。そんなとき、これらの言葉を思い出したいと思います。

※ 前回ワールドカップのロシア大会で、日本がベルギーに逆転負けを喫したとき、西野監督が言った言葉。「ロストフで倒れこんで背中に感じた芝生の感触や見上げた空を忘れるな」

## ○ 校庭紹介（5月）



中庭を管理棟3階から撮影しました。とてもきれいです。



職員昇降口の花壇です。ピオラなど春の花もそろそろ見納めです。